

加古川に在宅生活支援施設

介護と訪問看護 一体利用

終末期ケアにも対応

特定医療法人社団「順心会」は3月1日、運営する順心病院(加古川市別府町別府)隣に「ナースینگホーム 順心のきずな」を開設する。デイサービスなどと訪問看護も介護との定額で一体的に利用できる施設で、東播磨市2町で初という。胃ろうや点滴、酸素吸入などが必要な人の在宅介護を支援する。

(伊丹昭史)



「順心のきずな」の外観

順心会が来月1日開設

で、順心会は同ホームを新設し、訪問看護ステーションも備えた。昨年10月に着工し、今年1月に完成した。鉄骨2階建て延べ約353平方メートル。食事などに使うデイルーム(約80平方メートル)のほか、宿泊室(9平方メートル前後)も9部屋ある。体の状態に応じて介助しやすい可動式の浴槽や、寝たまま入浴できる機械浴槽なども備える。

定員は、利用に必要な



「順心のきずな」のデイルーム。左奥は宿泊室—いずれも加古川市別府町別府

登録が25人で、デイサービスが15人、宿泊が9人。どこにも対応しやすい。医療処置が多くても介護度が高くて『住み慣れた地域で生活したい』という思いを諦めず、相談し開、終末期ケアなどにも対応できるという。

管理者で看護師の植村富美さん(48)は「順心病

1・5544

同ホーム ☎ 079・45

要介護の人が急性期の人数に限りがあり、入所後も医療処置を受け続けられない場合、介とという。在宅生活を支える施設では、看護師らの家族の負担軽減も課題

デイルームや宿泊室設置